

ブルーンスター



この学年通信の名前は2組の ■さんが考えてくれました。この青学年が星のように輝き、学校を引っ張っていただけますように。そしてブルーンスターはメインの花ではなくて、脇役的な存在。輝くだけではなく、裏でも支えていける学年になりますように…。花言葉は「信じあう心」。クラスメイトを信じながら、行事や受験に向かって進んでいただけますように…。という思いが込められています。



今週末には都立高校の推薦入試。15名の
人たちが受験します。合格発表は31日。
良い結果が出ることを祈っています。落
ち着いて、慌てず受け応えを！！

来週の予定



日	曜	学校行事等	持ち物・提出物
27	月	50分授業×6 ①学活 江戸川区合同作品展終了 歯みがき強化週間（月1組火2組水3組木4組）	白衣
28	火	50分授業×6	
29	水	50分授業×5 ⑤道徳 職員会議 掃除なし・引率下校 部活動再登校16時	
30	木	50分授業×6 都立1次・分割前期願書受付開始（～2月5日） ⑥総合（都立推薦発表事前指導） 避難訓練	
31	金	50分授業×6 都立推薦入試発表 2年音楽鑑賞教室（AM） ⑥総合	白衣持ち帰り

※ 進路に関わる重要なお知らせは、t e t o r uにてその都度お知らせしますのでご確認ください。

江戸川区合同作品展出品者！！ 敬称略

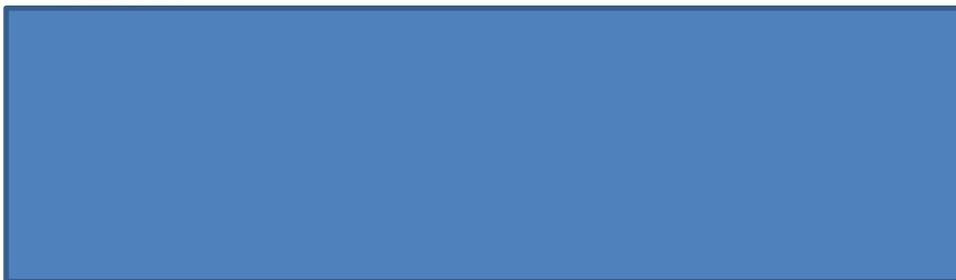
1月当初にもお知らせが配布されていますが、本日よりタワーホール船堀1F展示室にて江戸川区合同作品展が始まりました。書写・美術・技術・家庭の中で、学校代表として優秀な作品が展示されます。教科によっては3年生以外の学年の作品が展示される場合もあるので、全ての教科で3年生が出品されている訳ではありませんが、出品された人たちを紹介します！！お時間のある保護者の方は、是非ご覧ください。

※下記時間帯で観覧できます。

- 1月24日（金） 14:00 ～ 18:00（入場17:30まで）
- 1月25日（土） 10:00 ～ 18:00（入場17:30まで）
- 1月26日（日） 10:00 ～ 18:00（入場17:30まで）
- 1月27日（月） 10:00 ～ 13:00（入場12:30まで）

【家庭科作品出品者】

- 1組
- 2組
- 3組
- 4組



【書写出品者】

- 4組



裏面に続く

～ある新聞社の社説から～

受験シーズンに「落ちた」話は縁起でもないが、50年以上前に実はお受験（小学校受験）をして落ちた。近所の国立大付属を受け、1次にあたる抽選は母が当たりくじを引いて通過したが、2次の試験は不合格。▶試験後「どうだった」と親に聞かれ、「全部できた」と胸を張った（嘘をつく）が全然できず。集団行動でじっとしてられない（落ち着きがない）、体力をはかる立ち幅跳びで思い切り助走する（ルール無視）など、最近見たお受験マニュアル本の「落ちる子」に、ほとんど当てはまった。▶大学入学共通テストで問題文が長いなど、読解力が重視されると話題だが、昨今の小中学受験はそれを先取りするように読む力や聞く力が問われている。例えば、小学校受験でも5分程度の物語を聞き、いくつかの質問に答える。▶最近の子供たちは「ネットで短文発信は上手でも、まとまった情報を受けて考える、聞くことが苦手」だと「 」塾長の さんは危惧する。 さんは教師を経て、企業経営者らが講師を務める同塾の設立に携わり、指導に当たってきた。▶同塾は10～15歳の小中学生らを対象に休日や夏休みなどを利用して学ぶ。春の募集を前に、近く入塾説明会が行われるが、講座ごとに感じたこと、気付いたことをレポートに書く。自分の考えを3分程度スピーチする訓練も特徴だ。▶きちんと書く、話すことを通して「聞き手になった時も、しっかり聞ける」と木村さんは言う。現代の子供たちというより、学校教育が苦手としてきた学びだ。先にあげたお受験では、四季の特徴や駅ホームの並び方が問われることもある。子供の力というより、大人の教育が問われているようで切ない。

学年主任のつぶやき

前述の社説は、2年ほど前の某新聞紙に掲載されていたもの。文中にあるお受験マニュアル本なるものを目にしたことはないけれど、きっと自分も「落ちる子」の先頭にいそいだ。先週末の18・19日には大学受験の共通テストが行われた。以前はセンター試験、もっと前は共通一次と言われた試験。この名前でピンとくる保護者の方も多はず。前述したようにこの記事は2年前のものなので、その当時から文章読解能力が問われる傾向が高まっていたとすると、朝読書時に実施している「よむ読むワークシート」の取り組みは的を得ている。中高生の時に実施された能力テストたるものでは、「言語能力」が低いと判定された過去を持つ自分は、人の話を聞いて考える・答えるといった能力が問われる現代では時代遅れというところだろう。とはいえ、これでも人の前で話すことが多いわけなので、自分には無理と諦めてはられない。まだ、この塾が運営されていたら入塾説明会に参加してみようか…。冗談はさておき、自分たちが中学生の頃の英語教育は、文法主体？の授業で、話す・聞くに重きを置いていなかったように思う。 さんの「this is a pen!!」がギャグになっちゃう時代なので（古いねしかし…）致し方ないけれど、お陰様で日本語もたどたどしい自分が英語を流暢に話せるわけもなく、簡単なコミュニケーションも英語では自信がない。 さんが片言の英語で目的地を目指すテレビを見ると、その度胸とボキャブラリーに感心する。そう思うと、中学3年生の時に赴任した英語の先生は、いきなりビートルズの「imagine」を授業の題材にして、カセット（これも古いね…）で曲をかけながら授業をしてくれたことは斬新な経験だった。勿論、今の英語の授業のようにスピーチが盛りだくさんの授業とまではいかないけれど、洋楽の歌詞に注目し、英語を読み取ろうとした経験は今でも覚えている。学校教育の在り方は、その時代背景と共に様変わりしていく。自分たちの時代の英語教育を恨むつもりはないし、同じ教育を受けた人たちの中にも、英語は勿論、数か国の言語を巧みに操る友人もいる。要は自分の不勉強だろう。昨年末、足立区時代の教え子と忘年会を開いた際、教え子のお付き合いしている彼氏はアメリカ人で、日本語を使いながら、ところどころ教え子が通訳してくれた。中学校時代はそこまで勉強ができるわけではなく、 高校にはバスケのスポーツ推薦で進学した人だったけれど、ワーキングホリデーを利用して数ヶ月外国を渡り歩くなど、元来の行動力も相まってか英語はべらべらだ。きっと、英語が話せない自分なんかより、沢山の出会いと経験があるに違いない。そう思うと、もう少し勉強しておけばよかったなという気持ちもある。前述したように、時代と共に要求される能力も変わってゆく。まさしく現代では、「相手の話を聞いて・理解し・自分の意見を話す」という能力は不可欠な能力なのだろう。付け加えれば、「大勢の前でも話せる能力」も。LINEやInstagramのDMで見られるような短文だけではだめって事でしょうか。受験を前に面接練習なるものを経験したみんなは、どんな感想を持ったでしょうか。慣れ親しんだ校長先生ではなく、初対面の人の前で質問に答える。将来は、自分の考えをプレゼンし、聞き手の興味を湧き立てるスキルが必要とされるかもしれません。誰でもすぐにできるわけではないけれど、みんなが社会に出るまでに、恥ずかしがらずに堂々と発言できるように。そして、聞く・考える・答えるの力と共に、「聞き手になった時も、しっかり聞ける」力をつけてください。